

前橋市産業振興ビジョン2013<概要>

本市をとりまく現状

- ①人口減少 ②生産年齢の減少 ③生産拠点の海外移転 ④グローバル化による競争激化
- ⑤消費需要減少等 ⑥価値の多様化 ⑦モータリゼーション ⑧長期化するデフレ ⑨IT社会

前橋市が目指す将来

本市は、農業、建設業、製造業、卸・小売業、学術研究機関、医療・福祉業等、数多くの業種が存在し、全体としてバランスの良い産業構造となっております。とりわけ製造業については、かつて栄えた製糸業の流れから、製造・加工技術が発展し、輸送用機械器具製造業、食料品製造業、などの業種が多く立地し、「ものづくり」の精神が根付いています。さらに農業については全国有数の農業生産額を誇ります。

また、本市が位置する群馬県の県央部は、内陸でありながら交通網が発達し、災害にも強い場所です。この様に本市は、異なる業種の交流や、学との連携による新たな価値の創造、物流の優位性等、これから今まで以上に産業を発展できる多くの特徴を有しております。こうした特徴を十分に活かしながら、市内の企業、そこで働く人々が活力をもって、努力と工夫を重ねることによって、産業が発展し、活力あふれる前橋市を目指します。

本市の地域の特性、ポテンシャルを活かした活気ある産業が立地する都市

不況や構造変化に強く、持続的に成長できる産業都市

誰もが新たな事業にチャレンジでき、働く人が安心していきいきと働くことができる都市

【目標】 市民(納税義務者)の平均所得額を 平成25年度の 〇〇〇 万円 から
⇒平成28年度は 〇〇〇 万円 にします。
 法人市民税収を 平成24年度の 〇〇〇 億円 から
⇒平成27年度は 〇〇〇 億円 にします。

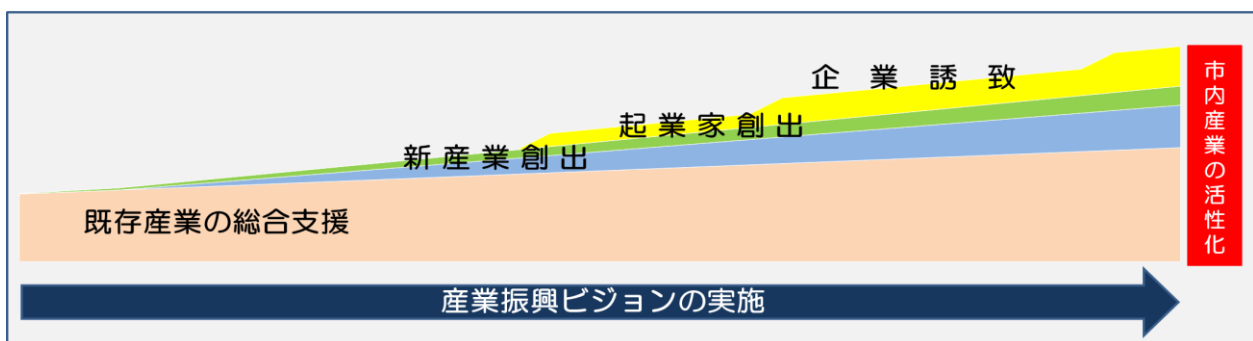
将来像実現に向けた施策の柱

既存産業の総合的支援

新産業の創出・成長産業の育成

企業誘致の推進

起業家の創出と人材育成・新規事業の支援



ビジョンの具体化の方法

1. 戦略を実現するための具体化手法
 - ①取組みの具体化 — 実施可能な事業から実績を重ね取組みを拡大
(企画、ニーズ把握、外部制度、外部委託、予算取、訪問、調整、規則整理、実施、検証、改善・廃止)
 - ②連携の強化 — 群馬県、学術研究機関、商工会議所等、連携・協同
 - ③事業の評価 — 事業の評価、検証、毎年度の目標設定、PDCAサイクルによる進捗管理
 - ④戦略の見直し — 本市経済の環境変化に応じた柔軟な見直し(毎年の見直し、ビジョンの期間毎の見直し)
2. 事業推進体制の確立
 経済界、金融機関、学術研究機関等の連携、積極的な参画を得て、本市産業を着実に発展することのできるプラットフォームを構築 ⇒ (仮称)経営戦略会議